

日本史 問題Ⅱ

鎌倉幕府・室町幕府の支配機構に関する次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

12世紀末、鎌倉に拠点をおき、東国武士たちとの主従関係の確立につとめた源頼朝のもと、武家政権としての鎌倉幕府が成立した。頼朝は権力基盤を固めながら、侍所・公文所^①(のち政所)・問注所をおき、支配機構を整備していくとともに、地方支配のため東北に奥州総奉行、京都には京都守護^②、九州には鎮西奉行をおいた。これらのうち、京都守護と鎮西奉行は後に新たな機関として整備されることになる。また、各国には守護と地頭をおき、治安維持などにあたらせた。

その後、14世紀前半に成立した室町幕府の支配機構は、ほぼ鎌倉幕府の機構に倣ったもので、中央機構として侍所・政所・問注所などが管領^④のもとにおかれ、地方の支配機構としては、関東に鎌倉府、九州に九州探題^⑤、東北に奥州探題・羽州探題がおかれた。なかでも鎌倉府は、足利尊氏の子基氏の子孫が代々鎌倉公方に就任し、鎌倉幕府の基盤であった関東を支配した点で当初から重視された。しかし、幕府同様の機構をもち、権限も大きかったこともあり、鎌倉公方はしだいに将軍と衝突するようになっていった。^⑥一方、守護は、鎌倉時代末期から南北朝動乱にかけての時期に権限が拡大された。守護は、それら権限を利用して在地武士の被官化を進めるなど、任国における地域的支配権を確立していった。

問1 下線部①に関して、公文所の初代別当となった人物は誰か。

問2 下線部②に関して、奥州総奉行が設置されるのは、奥州合戦後のことである。以下の『吾妻鏡』の記事を参考に、史料中の下線部㊦の人物が誰を指すか、下線部㊧の「両国」がどこを指すかを具体的に示しながら、奥州合戦に至る経緯と合戦の結果について説明せよ。

(文治五年八月)二十六日癸丑。日の出の程、^{ひつぶ}疋夫一人御旅館の辺に推参し、一封状を投げ入る。逐電しその行方を知らず。諸人これを^{あや}恠しむ。召覧するの処、表書きに云く「進上鎌倉殿侍所泰衡敬白」と云々。状中に云く「伊予国司の事は、父入道扶持し奉りをはんぬ。泰衡全く^{らんしょう}濫觴を知らず。父^な亡きの後、貴命を請け誅し奉りをはんぬ。これ勲功と謂うべきか。而るに今罪無くして忽ち征伐有り。何故ぞや。これに依って累代の在所を去り山林に交ゆ。尤も以て不便なり。両国はすでに御沙汰[㊧]たるべきの上は、泰衡においては免除を蒙り、御家人に列せんと欲す。然らずんば、死罪を減ぜられ遠流に処せらるべし。(略)」

「疋夫」：身分の低い男

「鎌倉殿」：ここでは源頼朝。

「父入道」：ここでは藤原秀衡。

「濫觴」：物事の始まり。起源。

(原漢文、一部を書き改めた。)

問3 下線部③に関して、京都守護は後に何という機関に改められ、それ以降どのような役割を担うことになったのか、改められるきっかけとなった出来事にふれながら説明せよ。

問4 下線部④に関して、管領は、足利氏一族の三管領とよばれる3家から任命された。この3家とは具体的に何氏のことか。全て答えよ。

問5 下線部⑤に関して、三代将軍足利義満のもとで任命・派遣された九州探題の時代に室町幕府の九州支配が強化され、南北朝合一の実現に大きく貢献した。この九州探題が誰かを明らかにしながら、なぜ南北朝合一の実現に貢献したといえるのか説明せよ。